熊本地学会20周年によせて

旧幹事　熊大・理学部　長　谷　義　隆

熊本地学会が発足して20年を経過し、その間、研究会、巡検をはじめとして活発な活動が行われ、また研究発表、解説、紹介等常に充実した会誌が発行されていました。田村実先生の御指導、会運営を支えてこられた役員および会員の方々の熱心な参加、協力の下に本会が熊本県の地学に対する知識の増加と地学教育に対する意識の向上に大きく貢献してきたことに深く敬意を表する次第です。

発足当初のことを直接には知りませんが、田村先生の呼びかけで、主に小・中・高校の先生を対象にした地学の教育・研究の向上を計ることを目的に本会が設けられたと聞いております。以来今日までその主旨にかなった活動が行われていることは衆知の通りです。今日本会の主たる会員は、熊本大学教育学部を卒業され、県下の小・中・高校の先生になっておられる方々だと思います。田村先生、渡辺先生の御指導を受けて卒業された方々が、その後も地学に対する研究、教育の種々の問題を持寄り、活動を進めておられるわけです。

一方私の立場からみますと、当大学理学部を卒業した県下の中・高校の先生で本会に入会している方は、発会当時は多数おられましたが、現在はあまり多くないようです。現在のカリキュラムでは、理学部の学生が、田村、渡辺両先生から直接指導を受けることがありませんので、卒業後本会に入会したいという希望はあっても、何となく躊躇するのかもしれません。理学部の教官も時折本会に協力しているわけですが、卒業後教職につくという学生に対し、充分な勧誘をしていなかったことにも原因があるのかもしれません。理学部卒業生の多くは、地質コンサルタント会社や地質部門を持っている建設、土木会社等に就職し、教職につく人はむしろ少ないのです。したがって教室として、特に教職につく人を対象にした、いわばアフターケアともいうべき事を行ってはこなかったわけです。独自に研究活動を進め、成果をあげておられる先輩もいれば、公務の傍研究を続けている若い教師もいます。教室はこれらの人々の研究活動も、学会入会も、もっぱら個人の問題として見過してきたきらいがあります。しかし、今日のように地球科学の目覚しい進歩の時代にあっては、個人レベルでの地道な勉強や研究への努力のみでは、効率も悪く、まして片手間仕事にならざるを得ない立場では成果は益々あがりにくくなるでしょう。当教室卒業の中・高校教師も今日では大分増してまいりました。これらの人々の組織づくりが考えられる時期になりました。

こういう現状で、熊本地学会の２０年を繙いてみますと、その足跡の立派さを改めて知らされます。また実践の様子から多くのことを学ぶことができます。今後理学部卒業の立場であっても積極的に本会に参加し、活動していかれる方が一人でも多くなるよう希望し、また入会を勧めてまいりたいと思っています。本会が今後も一層企画、内容の充実を計り、大いなる成果をあげられますよう心から期待しております。

発　行　所

熊本地学会誌　No.65

熊本市黒髪２丁目　熊本大学教育学部

地学研究室内　熊本地学会

TEL 44－2111　振替　熊本 5359